

2026年4月

第4回

日仏デザインアワード

主催：在日フランス大使館、マニユファクチュール・ナショナル

在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセは、[マニユファクチュール・ナショナル](#)（モビリエ・ナショナルーフランス国営動産管理局とセーヴル）と協働し、日本を拠点とするデザイナーや工芸家を対象とする「第4回日仏デザインアワード」を開催します。受賞者は副賞として、フランスのマニユファクチュール・ナショナルに約一カ月間滞在し、デザインプロジェクトのリサーチを行う権利を得ます。

マニユファクチュール・ナショナルの創造と修復のための工房は、その卓越したサヴォアフェール（匠の技）を継承し続けています。特に、公共建築物の家具や装飾を管理するアトリエ・ド・ルシェルシュ・エ・ド・クレアシオン（ARC）で製作される作品は、モビリエ・ナショナルの工房から生まれるすべての作品と同様に、フォルムや製作技術の両面において、最先端のイノベーションを誇るフランスデザインの象徴であることを目指しています。

受賞者は滞在中に、モビリエ・ナショナルのコレクションや数々の工房（家具製造、椅子製造、ブロンズシャンデリア、絨毯やタペストリー修復、椅子張り、タペストリー装飾、等）、アトリエ・ド・ルシェルシュ・エ・ド・クレアシオンを見学し、現地のデザイナーや職人へのインタビューや彼らのサヴォアフェール（匠の技）との出会いを通して、プロジェクト実現に向けたリサーチをすることができます。

本アワードは、デザインとサステナビリティの観点から独創的なプロジェクトを選定し、フランスと日本の優れたサヴォアフェール（匠の技）の対話を創出することを目的としています。

募集要項

【対象】

日本在住のデザイナーもしくは工芸家

【スケジュール】

応募開始：2026年4月16日（木）

応募締切：2026年6月15日（月）24時（日本時間）

受賞者発表：2026年7月中旬頃

【条件】

レジデンス期間は、2027年1月～6月の間の約1ヶ月間（応相談）。受賞者の渡航費（日本ーフランス）と現地宿泊場所は同賞主催者が支給・提供。なお、レジデンスはリサーチを目的とするものであり、製作費は支給されません。

【応募資格】

- ・日本在住であること
- ・プロのデザイナーもしくは工芸家であること
- ・英語および／もしくはフランス語を話すこと
- ・過去の作品（ポートフォリオ）を提示できること
- ・滞在中、自立して行動できること
- ・滞在中はプロとして報酬の発生する活動を行わないこと

※年齢制限はなし

【応募方法】

下記の応募書類を **2026年6月15日（月）24時（日本時間）** 必着で、アンスティチュ・フランセ芸術部門 (dg.artistique@institutfrancais.jp) 宛にメールでお送りください。その際、件名を「デザインアワード応募」としてください。

※メールの添付ファイル容量が 5MB を超える場合は、外部データクラウドサービスや大容量ファイル転送サービス等をご利用ください。（会員登録が必要なサイトは受付不可）

【応募書類】（いずれも英語もしくはフランス語と、日本語で作成すること）

1. プロジェクトの説明と、その実現に向けたモビリエ・ナショナルでのレジデンス期間中に行うリサーチについて説明した企画書（最大5ページ）。プロジェクトのコンセプトや目的、素材についての情報などを含みます。また滞在希望時期もご記載ください。
2. 履歴書
3. 作品集／ポートフォリオ（写真、新聞記事、リンク等を添付しても可）
4. ポートフォリオの作品が応募者自身のものである旨を記した誓約書
5. 推薦状（任意）

【審査基準】

審査員による選考基準には、以下の要素が含まれます。

- ・プロジェクトが扱うテーマの妥当性
- ・フォルムの独創性、美的資質
- ・エルゴノミーへの配慮
- ・製品の産業化についての観点
- ・プロジェクトの革新性
- ・持続可能な開発に対する配慮
- ・フランスの工芸への関心、および／またはフランスと日本の工芸とを結びつけることのできるプロジェクト
- ・プロジェクトと、その芸術的、文化的、知的方向性が明確であること

【結果発表】

審査結果はメールで連絡いたします。その後、弊館ウェブサイト等で受賞者の発表を行います。

【審査委員】

審査委員会は、以下の4名で構成されます。

- ・榎本アコ（株式会社デアイ代表）
- ・川上典李子（21_21 DEISN SIGHT アソシエイトディレクター、デザインジャーナリスト）
- ・在日フランス大使館代表
- ・モビリエ・ナショナル代表

審査員略歴



榎本アコ（株式会社デアイ代表）

武蔵野美術大学でデザインを学んだ後、フランス国立高等工芸学校を卒業。

パリのスタイリングオフィス「ベクレール・パリ社」でデザイナーとして経験を積み、1984年に株式会社デアイを設立。

現在はライフスタイルとインテリアデザインの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」を主催するSAFI社や、トレンド分析会社「ネリーロディ社」の日本オフィスを担当し、日本とフランスをつなぐデザイン・ファッション分野の架け橋として活動している。

して活動している。



川上典李子（21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター、デザインジャーナリスト）

デザイン誌『AXIS』編集室を経て1994年に独立、ジャーナリストとして活動を続けている。三宅一生氏を創業者とする21_21 DESIGN SIGHTには開館前準備より関わり、2007年の開館以来アソシエイトディレクター。近年では「デザインの先生」展の展覧会ディレクターも務めた。他にもデザイン

展にゲストキュレーターとして参加しており、一例に「Japanese Design Today 100」（2014年、国際交流基金）、「Japon-Japonismes. Objets inspirés, 1867 – 2018」（2018年、パリ装飾美術館）、「跳躍するつくり手たち：人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー」（2023年、京都市京セラ美術館）など。2026年度グッドデザイン賞審査副委員長、武蔵野美術大学客員教授。

撮影：Kenichi Yamaguchi

【過去の受賞者】

- ・ 第一回：遠藤絵美（EETY studio / デザイナー）
- ・ 第二回：渡辺祐（デザイナー）
- ・ 第三回：太田琢人（デザイナー）

【お問合せ】

アンスティチュ・フランセ 芸術部門（dg.artistique@institutfrancais.jp）宛にメールでお送りください。その際、件名を「デザインアワード 質問」としてください。電話でのお問合せはご遠慮ください。

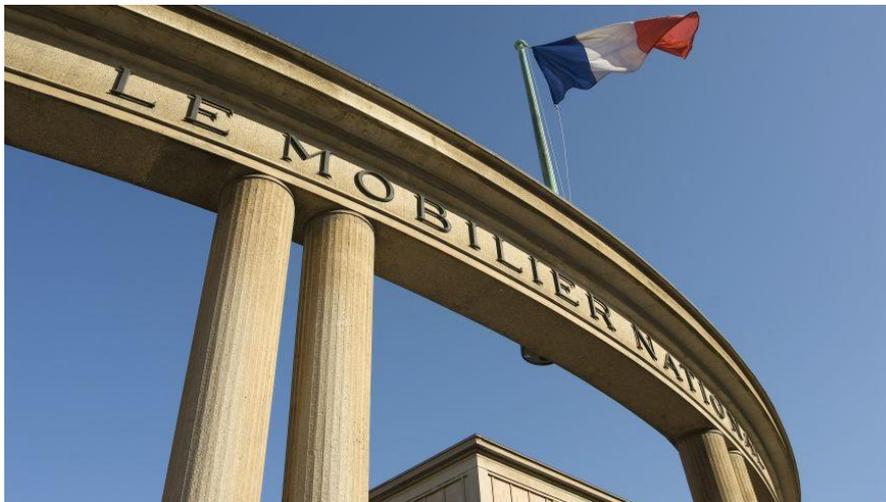


Photo © Mobilier national, Didier Herman

マニユファクチュール・ナショナル（セーヴル&モビリエ・ナショナル）

2025年1月1日より、マニユファクチュール・ナショナルは文化省の管轄下にある公的機関となり、モビリエ・ナショナルと「セーヴル&リモージュ陶芸センター」が統合されました。

モビリエ・ナショナル Mobilier national について

モビリエ・ナショナル（フランス国営動産管理局）は、フランス文化省直属の公的機関です。

17世紀より工芸とクリエイションの支援を行ってきたモビリエ・ナショナルは、その世界唯一のコレクションの保存と修復を行い、優れたサヴォアフェール（匠の技）を永

続させ継承していくことを使命としています。現代のクリエイションやフランス装飾芸術の振興にも力を入れています。

モビリエ・ナショナルは、フランス国内外の公共建築物の何万点もの家具や装飾品の製作や修復を行っています。340名以上の職員が、パリと地方で、この機関の優れた技術を維持し、実践し、紹介するために日々働いています。ゴブランとポーヴェの工場はタピストリーを、サヴォヌリーの工場は絨毯を、プイ・アン・ヴレとアランソンの工房はレースを扱っています。アトリエ・ド・ルシェルシュ・エ・ド・クレアシオン (ARC) は、フランスにおけるクリエイションとコンテンポラリーデザインの振興を目的としています。七つの修復工房は、木製品、鉄製品、テキスタイルといった異なる専門性を担っています。

未来を志向するモビリエ・ナショナルは、2020年に設立された「ゴブラン工場 工芸とデザイン専門学校」の創設メンバーです。その役割をつうじて、芸術的創造とコンテンポラリーデザインの活力を証言しています。

<http://www.mobiliernational.culture.gouv.fr/>

アンスティチュ・フランセ Institut français du Japon について

アンスティチュ・フランセは、フランス大使館直属の文化機関です。

2012年9月にフランス大使館文化部と東京日仏学院、横浜日仏学院、関西日仏学館、九州日仏学館が統合して誕生。5都市に分布する4つの支部（東京、横浜、京都、福岡）を拠点に、フランス政府公式機関としてフランス語講座を開講し、フランス発の文化、思想、学問を発信しています。2014年よりヴィラ九条山もアンスティチュ・フランセの支部のひとつとなっています。

<https://www.institutfrancais.jp/>